

まぶ で KO SO!

過去の記事は
こちら

育児との両立 医療守る力に

医療従事者のキャリア支援

医師がそれぞれの力を発揮できるキャリアを持つことは、医師自身がやりがいを持って働き、医師不足とされる地域医療に医師のマンパワーを充足させるためにも重要です。

岐阜大医学部付属地域医療医学センターでは、医学部で男女共同参画について学ぶ授業を行っています。女性医師の働き方から医師全体の働き方について考え、医師としてキャリアをどう形成していくかを考えることは、将来医師として働くうえで大切だと思われるからです。

女性医師の働き方に関しては、育児中の休職・離職などが影響し医師として十分なキャリアを形成できないことが問題とされてきました。2018年に女子

を不利に扱う医学部の不正入試が発覚しましたが、その背景には医師の労働現場において女性医師は十分なマンパワーとしないとする考えがありました。

では女性医師はどれくらいいるのでしょうか。厚生労働省の統計では医師における女性の割合は22年には23.6%で、1976年の9.4%から増加しています。2024年度の文部科学省のデータによると、全国医学部入学者の女性の割合は39.8%であり、今後さらに女性医師の割合は増えると考えられます。

岐阜大医学部でも入学者の女性の割合は10年ごろから20年までは2~3割程度でしたが、その後増加し23年度以降は入学者

の約半分が女性となりました。県内の地域医療の充足のためにも、女性医師の活躍がますます期待されます。

岐阜大医学部では、09年に女性医師のキャリア支援を目的に「女性医師就労支援の会」が発足し、24年には「みんなの就労支援の会」に改称し活動を続けています。女性医師支援では離職防止・復職支援から、育児と両立できる職場環境づくりや多様な働き方の必要性が言われてきました。どのような働き方でもしっかりとキャリアを持つことと、その意識の啓発が大切とされます。

20年に実施した岐阜大学病院

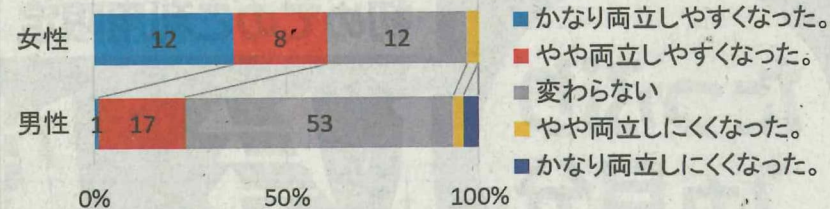


操奈美さん

医師を対象としたアンケートで、「仕事と育児の両立はしやすくなった」という質問に子育て中の男性医師は女性より支援をされていないと感じていました。また子育て中の女性医師は、勤務時間外に開催される講習会などの医師としての勉強の機会に参加しない傾向にありました。

このような差が生じる原因として、男性と女性の役割を決め

2020年に岐阜大学病院の医師を対象に実施したアンケート



て考える、性別役割分業意識があると考えられます。医学生も性別役割分業意識を持っていることが私たちの研究結果でも示されており、医学生の将来のキャリア観に影響していると考えています。

女性医師の働き方を通じて、医療職全体の働き方を考えることは、後の少子高齢化社会の日本の医療を守ることに繋がると私たちは考えています。大学で学んだことを十分に生かしな

がらみんなが生き生きと働くことができる、そんな職場になることが「みんなの就労支援の会」の目指すところです。

みさお・なみ



岐阜大医学部附属地域医療医学センター、岐阜大医学部麻酔科疼痛治療科所属。
名古屋市立大大学院医学研究科修了(医学博士)。